

れていて、良性結節でみられたいわゆる halo とは区別できると考えられた。

## 8. 実験的肺高血圧犬の作製に関する研究

(心研 理論外科)

○江石 清行・片岡 一則・菅原 基晃

(同 外科)小柳 仁

はじめに：我々は肺高血圧症に対する肺移植の実験の一環として embolization of pulmonary bed による慢性肺高血圧犬の作製法に関する研究を行なった。

実験方法：体重15kg 前後の雑種成犬に、末梢静脈より microspheres を静注し、肺動脈圧(PA 圧)、あるいは右室圧(RV 圧)の変化を測定した。用いた microspheres は平均直径50 $\mu$ m の polystyrene 群(p.s.群)と、250 $\mu$ m の polyacrylamide 群(p.a.群)であり、両群について比較検討した。また microspheres を数週間にわたり数回静注し、慢性肺高血圧犬の作製を試みた。

結果：p.s.群では、静注前20/10mmHg の PA 圧は静注後1分で80/50mmHg まで急激に上昇するが、30分後には35/20mmHg まで下降する。他の実験で静注後90分で静注前の値にもどってしまうことを確認している。p.a.群では、静注前27/2mmHg であった RV 圧は、比較的ゆるやかに上昇し、5分後に80/5mmHg に達し、70分後でも75/2mmHg の高値を維持している。他の実験で12時間後でも50/3mmHg (静注前25/0mmHg)を維持していた。慢性犬例では、p.s.の5回/4W の投与にかかわらず PA 収縮期圧は20mmHg で静注前と比較して変化がなかったが、その後の p.a.の3回/4W の投与により RV 収縮期圧は40mmHg に上昇した。

考察：今回 injected materials として、直径が均一化されており、組織障害性が少なく、代謝されたり化学変化をおこすことのない polystyrene 及び polyacrylamide の microspheres を用いた。平均直径50 $\mu$ m の p.s.群では短時間で圧が下降してしまうが、平均直径250 $\mu$ m の p.a.群では長時間高値が維持された。そして数日間隔の頻回投与により慢性肺高血圧犬の作製が可能であることがわかった。さらに組織所見から p.s.群では血管の再開通、および小葉内で相互に交通している細小動脈レベルでの補充効果が圧の早期下降の原因であると考えられた。

## 9. 心タンポナーデに対する新しい心のラドレーナージ法——anterior approach——

(胸部外科)

○毛井 純一・長柄 英男・板岡 俊成・

田原 士朗・山口 明満・曾根 康之・

和田 寿郎

従来、心タンポナーデのドレーナージ法として、剣状突起下到達法が一般的術式とされている。しかし、心のう内に達するまでの距離が長いことがあり、良好な視野が得られず、手術手技が困難になることも少なくない。そこで我々は傍胸骨切開による anterior approach を考案した。本術式は、左傍胸骨皮膚切開を行ない、第5または6肋骨を一部切除し、前方より心のう内へ到達する術式である。剣状突起下到達法に比し、手術時間、手術侵襲はほぼ同様と考えられるが、心のう内視野は非常に良好となり、手技が安全に行ないえる。現在まで、心タンポナーデ、4症例に対し本法を用いてドレーナージ術を施行した。心のう内の検索は充分であり、手術手技も容易であった。

教室では、本法にて外膜ペースメーカー植込みも行っており、良好な視野と安全な手技が得られる点において、本術式は心のうドレーナージ術にも大きい有効であると考えられる。

〔綜 説〕

## 10. 早期胃癌1,019例の検討——とくに外科治療と予後について——

(消化器外科)鈴木 博孝

胃癌外科治療成績の向上は早期胃癌に負うところが多いといわれる。早期胃癌が目目されてから約20年を経過したが、初期には100%治ると見なされたものも、症例を重ねるにつれて再発、癌死が起ることがわかってきた。

また寿命の延長とともに高年者が増え、かつ術前合併症の保有者が観察されるようになった。消化器病センターの早期胃癌1,000例の切除を機会に、検討を行なったので報告する。

検討症例は1965年より1982年まで18年間に切除を行なった1,019例(多発101例を含む)である。

まず、早期胃癌とは何か、胃癌の中でどこに位置付けられるか、外科治療は必要か、何を目的に何を基準に手術を行なうか、何をもちて手術の完全性を確かめるか、切除範囲はどうか、手術は安全か、など外科治療について述べた。第2に、予後と関連するリンパ節転移について、頻度や臨床病理的因子(性、年齢、大きさ、肉眼型、組織型と脈管侵襲)における転移の状態を検索した。第3に早期胃癌の再発、外科治療成績と生存率を検討した。